

実地研修評価票：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養

評価判定基準	ア 評価項目について手順どおり実施できている。	受講者氏名	
	イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。（実施後に指導した。）		
	ウ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。（見過ごせないレベルであり、その場で指導した。）	本票ページ数	／
	エ 1人での実施を任せられるレベルにはない。		

回 数	※（ ）内に実施研修の実施回数を記入すること		例(1)回目	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目	
月 日	※実施研修を実施した月日を記入すること		10／11	／	／	／	／	／	
時 間	※実施研修を実施した時刻を記入すること		13:15						
実地研修協力者（イニシャル等）			H. T						
実施手順	評 価 項 目		評価結果	評 価 結 果					
STEP:4 準 備	1	医師の指示等の確認を行う	ア						
	2	手洗いを行う	ア						
	3	必要な物品を準備する	ア						
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	ア						
	5	経管栄養の注入準備を行う	ア						
	6	準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア						
STEP:5 実 施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア						
	8	注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア						
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア						
	経管栄養の実施	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア					
		11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア					
		12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する	ア					
		13	注入物の滴下の状態を観察する	ア					
		14	挿入部からの栄養剤（流動食）のもれを確認する。	ア					
		15	注入中に実地研修協力者の状態を観察する	ア					
		16	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア					
17		クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア						
STEP:6 報 告	18	注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	ア						
	19	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア						
	20	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	—						
STEP:7 片づけ	21	環境を汚染させないように使用物品を速やかに片づけする	ア						
STEP:8 記 録	22	実施記録を記載する	ア						
アの個数 計			21						
指導看護師のサインまたは印鑑									

自由記載欄 ※指導内容について、裏面評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

例（1）回目	合格
（ ）回目	
（ ）回目	
（ ）回目	
（ ）回目	
（ ）回目	